

# 須藤 武（すとう・たけし）

## 1、プロフィール

1975(昭和 50)年、俳誌「澁柿園」に入会、代表・斎藤日出於に師事。1977(昭和 52)年、俳誌「氷界」に入会、秋元不死男に師事。1978(昭和 53)年、俳誌「狩」創刊に参加。63 年、同人。

### <生没>

1938(昭和 13)年 2 月 27 日 ~ 2015(平成 27)年 9 月 19 日

### <代表作>

剥製の鹿の遠目や春立ちぬ  
滝となる水ゆるやかにして迅く  
膳の間をたつぷり空けて夏料理  
縄文の血が吾にあり栗拾ふ  
糸瓜忌や俳句はみほとり目回して

### <青森との関わり>

弘前市生まれ。1990(平成 2)年、俳誌「狩」青森県支部会報発行に携わり、2000(平成 12)年、俳誌「狩」青森県支部長になる。

県内各地区の俳句大会において選者として活躍する。

## 2、作家解説

1938(昭和 13)年 2 月 27 日、弘前市生まれ。本名・武治。

1960(昭和 35)年、弘前大学教育学部卒業。1977(昭和 52)年、俳誌「氷界」主宰・秋元不死男に師事する。1978(昭和 53)年、俳誌「狩」主宰・鷹羽狩行に師事し、1988(昭和 63)年、俳誌「狩」同人となる。また同年、俳人協会会員となる。

著作に、句集「遠目」(狩俳句会、平成 10 年 1 月 25 日)、遺句集「縄文の血が」  
(平成 28 年 2 月 27 日)がある。